大雄山最乗寺（導了尊コース）

【時　　間】　２時間以上

★おすすめハイキングコース★

足柄ふれあいの村　→(20分)→　大雄山最乗寺三門　→(15分)→
碧落門　→(5分)→　本堂(護国殿)　→(5分)→　鐘楼　→(5分)→
結界門　→(20分)→　奥の院　→(20分)→　清滝不動尊　→(10分)→
洗心の滝　→(15分)→　安気地蔵　→(20分)→　ふれあいの村　　計２時間15分

いろいろな年中行事をおこなっていますので、詳しくは大雄山最乗寺へお問い合わせください。(大雄山最乗寺　電話：0465-(74)-3121～3（代））

【大雄山最乗寺とは】

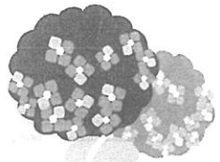
大雄山最乗寺は、曹洞宗に属し全国に４千余りの門流をもつ寺です。
御本尊は釈迦牟尼仏、脇侍仏として文殊、普賢の両菩薩を奉安し、
日夜国土安穏万民富楽を祈ると共に、修行を専門とする道場でもあります。
開創以来６百年の歴史をもつ関東の霊場として知られ、境内山林130町歩、
老杉茂り霊気は満山に漲り、堂塔は３０余棟に及びます。

【開創の由来】

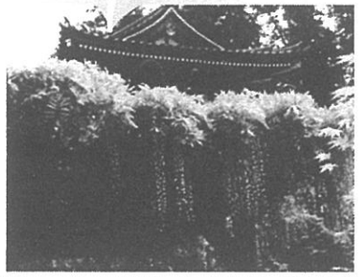
開山了庵慧明禅師は、相模国大住郡糟谷の庄(現在の伊勢原市)に生まれ、
藤原の姓を名乗っていました。大人になり地頭の職につきましたが、戦国
乱世の虚しさを感じ、鎌倉不聞禅師について出家をしました。
その後、能登總持寺の峨山禅師に教えを請い、更に丹波(兵庫県三田市)
永沢寺通幻禅師から大法を相続しました。その後も修行を重ね、ついには
通幻禅師の後すべてを引き継ぐまでになりました。
５０才半ばで相模国に帰り、曽我の里に竺土庵と名付けた庵を結びます。
ある日、１羽の大鷲が禅師の袈裟をつかんで足柄の山中に飛び、大松(袈
裟掛けの松)の枝に掛けて飛び去りました。「この地に寺を建てよ」との仏
の啓示と受けとめ、大寺を建立、大雄山最乗寺と称しました。

【道了大薩埵】

道了大薩埵は最高位の修験者で、霊験あらたかで有名でした。大雄山開創
にあたり、空を飛んで了庵禅師のもとに参じ、約１年の内にこの大事業を
完成させたと言われています。
その後、道了大薩埵は「以後山中にあって大雄山を護り多くの人々を利済
する」と五大誓願文を唱えたところ、火焔を背負い、右手に拄杖、左手に
綱を持ち、白狐の背に立つという姿に変わり、そして、山中に身を隠しま
した。このことに起因して、境内に天狗にまつわるものが多いのです。



大雄山でおこなう植物観察



春の草花

藤　椿　ヒマラヤ雪ノ下　杏　レンギョウ
しだれ桜　八重桜　シャガ　ツツジ

５月の初め、本堂前の藤棚が大きな花房を風にそよがせ、うす紫の花びらをほころばせ始めると、境内は一段と華やかさを増す。

夏の草花

シャクナゲ　山百合　サツキ
百日草　花水木　野牡丹
アヤメ　カイドウ　クチナシ
アザミ　アジサイ　野バラ
孔雀草　ムクゲ　夏椿

最乗寺に咲く花々の中で一番の見どころである紫陽花。例年６月初旬頃開花。７月初旬まで見頃

秋の草花

萩　金木犀　曼珠沙華
ツワブキ　サザンカ　紅葉

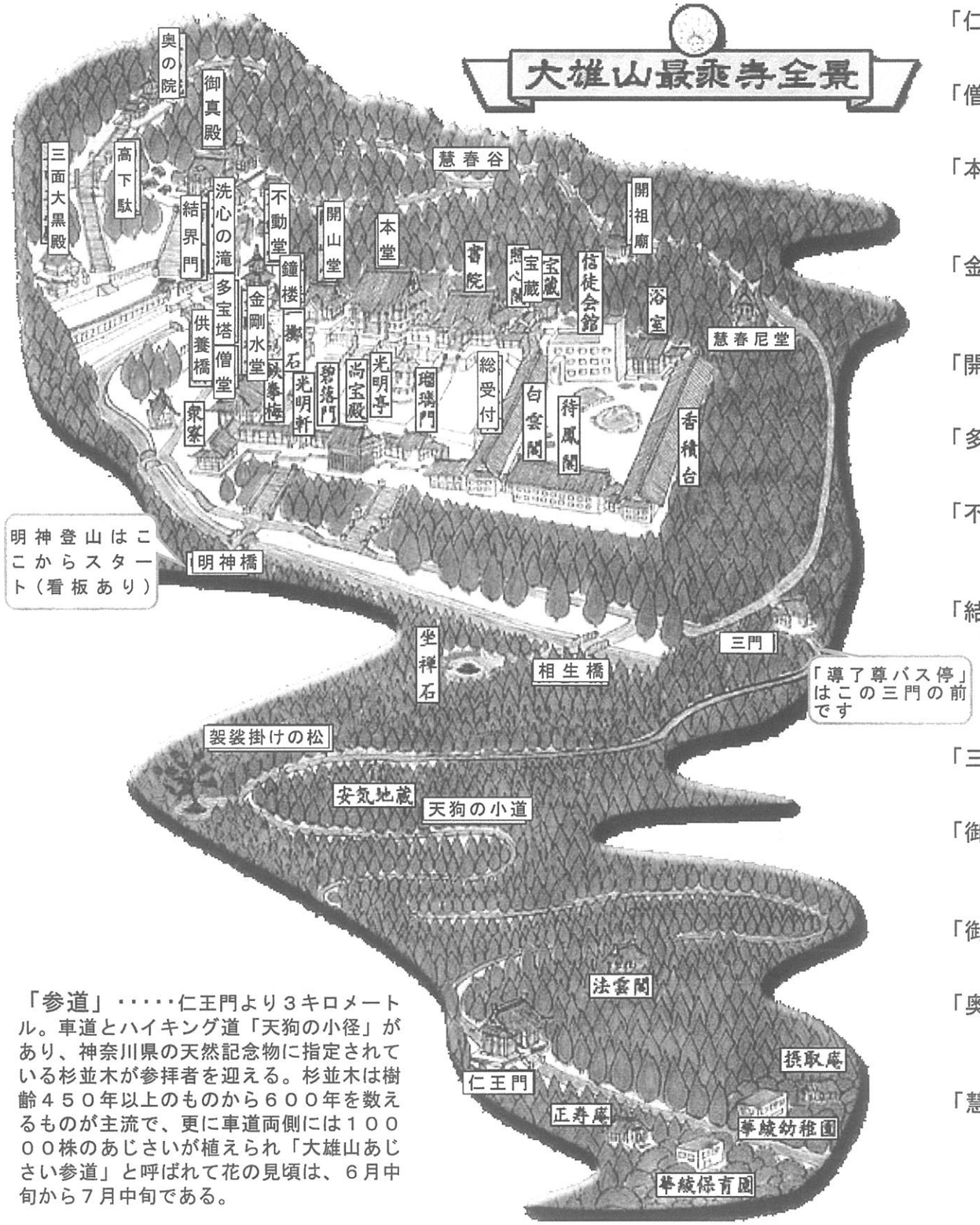
夏の紫陽花と対をなす大雄山のもう１つの見どころ、紅葉。辺りに初冬の肌寒さを感じる頃、雄峰の紅葉は見頃を迎え、訪れた参拝者に忘れかけていた日本の美を思い出させてくれる。

冬の草花

寒椿　野水仙　鉄拳梅(れき懸梅)

「鉄拳梅」は野梅性という種類で、この種類の花は、白の一重が普通で早咲きのものが多い。
大雄山でもまだ寒い日が続くなかでこの花が咲きだすと春も近いと感じる。

この資料は、大雄山最乗寺の了解を得て、ホームページより一部転用して作成しています



「参道」・・・・・仁王門より３キロメートル。車道とハイキング道「天狗の小径」があり、神奈川県の天然記念物に指定されている杉並木が参拝者を迎える。杉並木は樹齢４５０年以上のものから６００年を数えるものが主流で、更に車道両側には１００００株のあじさいが植えられ「大雄山あじさい参道」と呼ばれて花の見頃は、６月中旬から７月中旬である。

「仁王門」・・・・・参道の３丁目に位置する、朱色の門「東海法窟」の額と「最乗寺専門僧堂」の聯（れん）を掲げてあり、阿吽の金剛力士像が安置されている。

「僧堂（選仏場）」・・・・・聖僧文殊菩薩を祀るところから僧堂と云われ、修行僧が日夜、坐禅弁道に励む根本道場である。

「本堂（護国殿）」・・・・・昭和２９年再建。間口１５間、奥行き１２間。昭和を代表する仏教建築家、伊藤忠太氏の設計である。御本尊は釈迦牟尼仏、脇侍に文殊・普賢両菩薩を祀り、日夜国土安穏が祈念され、朝晩の勤行や当山山主が修行僧に対しての説法の場である。

「金剛水堂」・・・・・当山開創の時、道了様が自ら井戸を掘り、土中から鉄印を得たが、これが当山重宝の御金印（おかのいん）である。その跡から霊泉（金剛水）が湧出、以来６００年、この霊泉を飲むものの諸病を癒していると、伝えられている。

「開山堂（金剛壽院）」・・・・・昭和３６年再建。開祖了庵慧明禅師尊像等、歴代住持霊牌を祀る。本堂と共に昭和の総檜造りの名建築である。

「多宝塔」・・・・・文久３年（１８６３年）建立。多宝如来を奉安、方形層上円形木造二重の塔。南足柄市の重要文化財に指定されている。

「不動堂」・・・・・本尊清瀧不動尊（ほんぞんきよたきふどうそん）、両脇に天祐不動明王（てんゆうふどうみょうおう）・愛染明王（あいぜんみょうおう）を祀る。関東三十六不動の第二番の札所。圓通橋から不動堂を望むと明神ヶ岳山麓から湧水を引いた「洗心之滝」を仰ぐことが出来る。

「結界門（けっかいもん）」「御供橋（ごくうばし）」「圓通橋（えんづうばし）」
結界門より道了大薩の浄域とされる。その手前に御供橋・圓通橋があり、中央に御供橋、両脇に圓通橋が並行している。御供橋は白装束を身にまとった修行僧が道了様へのお供えをする時に使用する為の橋で、普段は通行する事ができないようになっている。この橋は、「かながわ橋　１００選」の一つに数えられている。

「三面殿」・・・・・三面大黒天（箱根明神・矢倉明神・飯沢明神の三明神が一体に刻まれている）を奉安している。三面殿の前には珍らしい子供を抱えている「子育ての狛犬」が安置されている。

「御真殿（妙覚宝殿）」・・・・・結界門をくぐり右手の７７段の石段を登ると、御真殿（妙覚宝殿（みょうがくほうでん））につく。当山守護妙覚道了大薩をご本尊に大天狗・小天狗が両脇侍として祀られている。朝晩の祈祷から日中の特別祈祷が、修行される道場。

「御真殿の高下駄」・・・・・御真殿脇に奉納された大小の高下駄。天狗さんの履き物は、高下駄だが、下駄は左右一対そろって役割をなすところから、夫婦和合の信仰がうまれ、奉納者が後を絶たない。

「奥の院（慈雲閣）」・・・・・鬱蒼とした老杉に囲れた３５０段余りの階段を登ると、御本地十一面観世音菩薩（当山守護道了大薩の御本地）が奉安されている奥の院につく。大雄山のもっとも高い所に位置するが沢山の参詣者がこの階段を登られてお参りに来る。

「慧春尼堂（えしゅんにどう）」・・・・・御真殿に登る車道の入口に、御開山了庵慧明禅師の妹で教えを慕い出家した慧春尼様のお堂がある。慧春尼様はお悟りを開かれ人々に法を説いたが、応永９年人々のしあわせを願い我が身を法灯と化して入定された。現在、そのお堂の中央に慧春尼様の石像が安置され周りには願いを込めてあげられた紅白のたすきが沢山ある。